

(様式1)

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ホームの畑の栽培している野菜の生育具合など、近況の話を行い、日常的な付き合いが出来るように努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域での敬老会に参加。

(様式1)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践内容を踏まえて地域の様々な研修・会合に係りながら認知症ケアの啓発に努めている。また人材育成の貢献として実習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え外部評価の結果は、ケース会議等で報告し改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		評価結果を回覧し、必ず目を通して。又代表者に報告し、理解を得ている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し合い現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。		会議の中で、常に意見交換が出来るように雰囲気を作りアドバイスを頂ける様、配慮している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者にたいしてグループホームを理解し支援してもらえよう働きかけを行っている。		ホームの見学や研修が自主的に増えてきており、サービスの質の向上に繋がっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は随時、職員に説明、アドバイスを行いながら利用者の支援に結び付けている。		研修など参加し、ケース会議で職員の理解も深めている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース会議等で高齢者虐待防止ほうに関する勉強会を実施し全職員が周知徹底を図っている。		生活支援する中で、気がつかず、言葉による虐待が発生する可能性があった場合、お互いに注意を促せるよう、雰囲気を作っている。

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考えや取り組み又利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、ご家族と話し合い対応方針を決め、納得を得た上で手続きを進めていく。		契約内容の変更などあった場合、十分に説明し、同意を得て契約を結びなおしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が来られ、利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考に使っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、職員の手書きによる、現状報告書でお知らせしたり、訪問時日頃の生活ぶりを詳細に伝えている。		職員の結婚・出産などの報告をさせて頂いた。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がいつでも利用出来るように第三者苦情相談員を立ててご家族等から得られた意見等をケース会議で話し合い反映させている。		運営推進委員会に、ご家族代表が参加してもらい、意見などを聞いて運営に反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を月1回行い、職員の要望を聞くとともに、日頃からコミュニケーションを図り、意見を反映させるよう心がけている質の向上につなげている。		管理者は毎日の申し送りなどで、意見や提案を聞く機会を設けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるようなローテーションを組んでいる。また、その程度必要に応じて、柔軟な体制がとれている。		他か受診やご家族からの急な依頼など、その都度状況に応じた勤務調整に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合も、引き継ぎの面で最善の努力をしている。		

(様式1)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成のため研修会には極力参加を志し、同じスタッフだけでなく、論番制で参加し、参加したスタッフは必ず参加出来なかったスタッフに伝受する。</p>	<p>地元での研修会は全て参加しているが本土での研修は輪番制で参加している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者が少ない為、充分なことは出来ないが、相互訪問。意見の交流等を通じてサービスの質の向上に励んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレス発散、全身運動を含め一週間に一回体育館を借りてバレーボールの練習し、個々にゴルフ等を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者及びスタッフ全員の勤務状況を把握し、楽しく働ける職場作りに努めている。</p>	<p>福祉に関する図書の購入等を行い、グループ又は個人で学べる雰囲気作りを行っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスの利用について相談があったときは、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。</p>	<p>インテーク終了後、全職員に連絡しラポールに努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の困っている事、不安等を理解しどのような対応が出来るか話し合い、サービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり聞くように努めている。</p>	<p>ご家族の不安を取り除き安心して任せて頂けるように努めている。</p>

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案、必要なサービスにつなげるように努めている。		他の行政サービス利用の相談をしたり、可能なことは行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族が事業所を見学してもらうことから始め、食事を一緒にされたり、行事・レクリエーションに交わったりしていただき安心感を持ってもらうようにしている。		体験入所可。(無料)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しながら、本人の思いや不安・喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、ご家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族・本人の思いや状況を見極めながら、外出・外泊でご家族と一緒に過ごすことを努めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続に努めている。		ご本人の満足はご家族の満足と理解しサービスに努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住まわれていた方々の面会や昔から利用している美容院等にお連れしている。		墓参り・近所の買い物など、馴染みの場所に行ったり、友達に会う機会を設けている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		お茶のお世話や車椅子の方の手伝いをされているのを良く見かけ職員は見守っている。

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方も行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでの把握及び、日々の日常生活の中でそれぞれの入居者の希望を聞き対応できるものについては出来るだけ対応している。(入浴などは曜日を決めず本人が希望すれば毎日入浴できる体制・買出しや理美容の希望に応じている)		担当スタッフによる月経過記録・ケアチェック表の作成やスタッフと入居者との会話等の中で利用者の思いや希望などの情報収集を行い、利用者本位の生活の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後も、入居者との会話時やご家族の面会時に聞きとり及び情報交換を行っている。	○	現状を継続してご家族との情報交換を密にし、入居者との会話の時間を多く持つ様になっている。 担当スタッフによる家族への連絡等で情報収集を図り、チームによるバックアップ体制を強化したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や個人記録での記録や、毎日の健康チェックの実施等で把握を行っている。		主治医及び看護師達との定期的な情報交換。 日常生活の中で本人の出来ることは、スタッフと共同で行って頂いており、月経過記録で現状の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及びご家族の意向や希望を聞きとり、又担当スタッフにチェック表の作成を求め、これらを考慮しながらプラン作成を行っている。		ケアマネジャーが作成するのではなく、ケアマネと、担当スタッフとで話し合いの場を持ち、プランを作成している。 又、ケース会議等において、次回のケアプランに取り上げてもらいたい項目等を検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変更時にはその旨をご家族に説明し、入居者やご家族に意向や希望を聞き、現状と照らし合わせ、プランの原案を作成に努めている。	○	認知症の入居者から希望を聞くことは難しいが、極力本人の発する意向や希望をくみ取っていききたい。 ご家族がご家族の意向を伝えやすいような様式等を検討していきたい。

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や業務日誌・連絡帳などで情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに繋げている。		毎月の月経過記録を担当スタッフに上げてもらい、ケース会議やケアマネジャーとの検討で次回の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、通院や空き部屋を利用したショートステイの送迎等、必要な支援は柔軟に対応し馴染みの関係を作るよう努力している。	○	ホームの中庭や廊下のスペースを使い、保育園児童や小学生等の作品の展示会等を行い交流の機会を図っていききたい。ホームの中庭(芝生)を小さい子供たちの遊び場として提供し、入居者との交流の場として広めるように検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な消防訓練、民生委員との交流・小中学生の体験学習などの受け入れを行いながら日々の支援を行っている。	○	地域のクリーン作戦に参加したり、文化祭などに入居者の作品を展示させて頂くように働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所、入居者より他サービスの利用希望が上がっていない。		当施設で提供困難と思われるサービスについて、利用者よりの希望があれば検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	個別の入居者の困難事例について、相談を行い共同で問題解決に当たる様に努めている。(在宅復帰や他施設への入居について)		今後も利用者やご家族の相談に応じて包括との連携を図っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族と協力し通院介助を行ったりの支援をしている。		眼科・婦人科・皮膚科等への予約受診の調整や付き添い介助を行っている。

(様式1)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	屋久島には認知症専門医がない。協力医療機関の主治医が職員やご家族の話聞き、日常の利用者の姿を通して適切な指示や助言をして頂いています。		保健所と連絡を取り、専門医の来所を依頼している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、協力医療機関に連絡し確実な連携を行っている。		状態に応じて主治医・NS等へ連絡し、受診・往診等を行ってもらい支持して頂いている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報提供を医療機関に出し、職員が頻回に見舞うようにしている。又、ご家族とも情報交換をしながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期的な健康診断で医師・ご家族との連絡をとり、重度化した場合、全員で方針を検討し、最終的にはご家族に決めて頂いている。	○	本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡をとり安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。終末期ケアに対する学習がスタッフ個々で行えるように取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	より良い終末期を迎えられるよう、かかりつけ医と共にチーム支援を行っている。		本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡をとり安心して最後までケアを受けられるように努めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族やサービス提供者が十分な話し合いのもとで、情報交換を行いダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

(様式1)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース会議や申し送りの際に職員の意思向上を図るとともに利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	尊厳の尊重は当グループホームの絶対的目標である。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりし本人が決める場面も作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせて支援し、又行事等は化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの理美容院や協力で来園してもらったり希望に合わせて職員が支援している。	ご本人の使いなれた化粧品の購入をし、毎日のお手入れが出来る様に準備をしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と採ってきたつわぶき、近隣から頂いた食材を使って一緒に調理し、盛り付け片付け等も利用者と共に行い職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。	特に戸外での食事は全員、好まれるので、戸外での食事(バーベキュー・ピクニック)の機会を増やす様に努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人の嗜好物を理解しており、利用者の様子や時間を見ながらそれらを楽しめるように支援している。	毎日、晩酌をされている方もいらっしゃる。タバコは、喫煙場所を設けライターは所定の場所に固定し、安全に喫煙できるよう配慮している。

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを配慮してトイレ誘導をすることでトイレの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望に合わせて時間や回数など自由に入浴が出来るよう支援している。		入浴が出来ない場合は清拭や足浴で対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けないうきには添い寝をしたり暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりをし、一人一人の体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事作り、裁縫、梅酒作り等、利用者の経験や知恵を發揮する場面を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも買い物時のお金などは自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、あるいはドライブ等に出かけている。		希望する場合、できる限り希望に添えるように配慮したり、戸外へ出かける機会を置けている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、計画を立てて職員の勤務を調節する等しながら支援する。又ご家族の協力を依頼することもある。		

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援を行い利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは決めておらずご家族、知人等の訪問者が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。		希望があれば、ご家族に泊まって頂いています。(敷地内のログハウスも提供している)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修等に参加し、ケース会議、申し送り等で勉強会を実施し職員の共有認識を図っている。		身体拘束廃止委員を設けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出られるときは止めるのではなく、声をかけ一緒に行動したり問題がある場合は一緒について安全面への配慮を行っている。(楽しい運動、散歩の時間となるよう努めている。)		基本的に居室の鍵はなく、玄関は日中、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、利用者の状況を把握するよう努めている。夜間の休息は居室が見通せる廊下のソファで休むなど24時間利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて、注意の必要な物品は事務所に保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成し職員も内容をよく理解している。日、万が一の事故が発生した場合にはすみやかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、ご家族への説明等報告を行っている。		

(様式1)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員の周知徹底を図っている。	○	救急手当や蘇生術の研修を定期的に行えるように努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し利用者と共に避難訓練を行い、消防署の協力を得て避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を行った。	○	次回、夜間の避難訓練を予定している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みをご家族に説明し、理解を得られるように努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しの変化等に気付いたことがあれば、直ちに管理者に報告すると共に、職員間で共有し状況により医療受診に繋げている。		毎日バイタルチェックを行って健康管理を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋をケースに貼り、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し、きちんと服用できるかの確認をしている。(薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは協力医療機関との連携を図れるようにしている。)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れたり、散歩や運動を行い自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		水分をこまめに摂取してもらったり、腹部マッサージを行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア食後の歯磨きに職員が誘導、介助する。口腔内異常の場合は即歯科受診を行う。		

(様式1)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録チェック票に毎日の食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。又、食事内容に関しては定期的に栄養士のアドバイスを受けている。		アレルギー・食道癌術後の方には代替を用意し食事をとる。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成学習して、全職員が周知している。感染に関して情報収集を行い、早期発見、早期対応を行い予防対策に努めている。		毎食前の、手洗い(石鹼・ヒビスコル液を使用)を行っている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は随時除菌・清掃し、包丁・まな板も保存している。買い物は2日に1回行うが、新鮮で安全な食材を使用するため、なるべく買いだめをしないようにして毎日、食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したり処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には菜園畑も作り、玄関先の入り口に鶴亀の像が置いてあり、違和感や威圧感を感じさせず、利用者やご家族、近隣の人が入りやすいように工夫しています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に家庭的な暖かい雰囲気を感じると来客者に喜ばれている。ソファーや畳の腰掛けがあり、冬期間にはコタツを囲み飲み物や談笑の「場」が用意されている。		屋久島ならではの木を活かした生活空間。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも玄関前にベンチを設置し、ホーム内では畳の部屋にコタツを設け、廊下の窓側にソファーを置いたり、それぞれ利用者が思い思いに活用されている。		

(様式1)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	寝具は各自の物を使用。タンス、座椅子等なるべく使い慣れた物を持ち込んでご家族と相談し生活空間作りを考え、協力を求めど本人がご家族の持込を嫌がっているので今ひとつ対応が必要。		持ち込みをされている人はそれぞれの思いのままに道具を置き生活されている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	職員が常に温度湿度をチェックしながら、利用者の状況に合わせて調節している。		冷暖房のフィルター掃除など定期的に行い加湿器・消臭剤など利用し気持ちの良い生活が出来る様、支援している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、浴室、トイレ等がバリアフリーで手すりを必要な箇所に設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口にはご本人の顔写真、ネームが掛けてあります。夜間でもトイレに迷わないように配慮し、目印の工夫をしている。		自立に繋がる環境作りに努め常に見守り、適切適宜に支援を行っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の畑や庭(芝生のグラウンド)ベランダ等で植木の手入れや水あげを行えたり、洗濯物干しや日向ぼっこができ、芝生のグラウンドではゲートボール、5月18日運動会を開催したりして活かしています。		天気の良い日はグラウンドの芝生での散歩。

(様式1)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

(様式1)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者・職員は全て家族であるという事をモットーとし、目上の人に対する、言葉使い、礼儀等、若いスタッフにも家庭・学校でおそわらなかった修身教育等、利用者を通して学び教育に力を入れている。